

海域の概要

本湾は、七尾市・穴水町・中島町に囲まれている湾で、湾南部は七尾港を中心として発展しています。湾内には能登島によって北湾・西湾・南湾に区分されています。



Specification

諸元

湾口幅：1 1 5 8 km

面積：1 8 2.9 2 km²

湾内最大水深：58m

湾口最大水深：4 6 m

閉鎖度指標：1 4 7

備考：環境基準類型指定水域(一部)

Location

範囲または位置

石川県鳳至郡穴水町恵比須崎と鹿島郡能登島町勝尾崎を結ぶ、線同町勝尾崎と七尾市観音崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

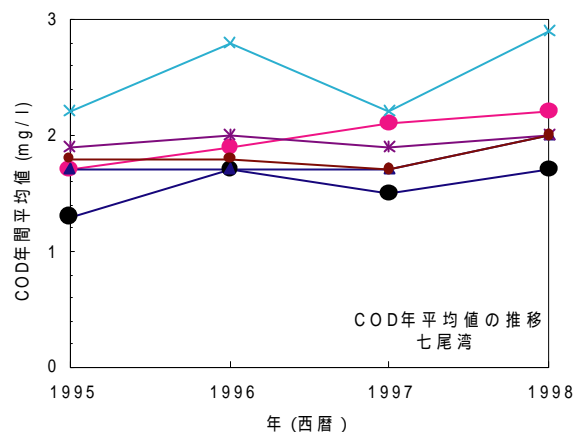


環境

七尾湾は、日本海に面しており、海底は水深 1,000m 以上の富山深海長谷へと続いています。能登島からの河川はほとんど無く、能登半島側から大谷川・熊木川などが流入しています。

水質は、全般に良好ですが、一部南湾の七尾港では、COD年平均値が2mg/lを上回る状態が続いている地点もあります。

底質は岩が主なものですが、西湾には砂や泥の場所が多くなっています。



自然

湾内には能登半島に抱かれるように周囲 72 km、面積 46.7 km²の能登島があり、七尾湾を北湾、西湾、南湾に分けています。海に迫る山並みや能登島のなどの景観を持ち、能登島を中心に能登半島国立公園に指定されています。

北湾、南湾は西湾とくらべて、外海の海水が入りやすく、岩場も多いことから、ガラモ場が分布し、西湾の湾奥部には、アマモ場が広がっています。また、海域の動植物ではホソエグサ、ヒジキ、アカハゼ、シオガマサンゴ、ウミサンゴ、フトウミエラ等の希少種の分布が確認されています。



七尾湾

文化歴史

古府タブノキダ遺跡、小池川原遺跡では官衙的要素を持つ建物群や遺物を検出しています。現代では、昭和 57 年に能登島大橋が開通して以来、和倉温泉を中心に観光やヨットレース等のイベントも盛んになっています。

嘉永 6 年 (1853 年) 6 月、アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが浦賀に来航し、幕府に開国通商をせまったことは有名ですが、七尾の港にも、慶応 3 年 (1867 年) にイギリス・フランス・アメリカの艦船が相ついで入港し、中でも 5 月に来港したイギリス艦セレベント号は、七尾湾を測量して、7 月には、イギリスの 3 隻の艦船を新潟から回航させ、七尾港の開港か避難港として、食糧、燃料の供給基地とするよう迫ってきたということがありました。

産業

七尾市を中心に、農林・水産・工業・商業・観光などのすべての産業がほぼ均衡的に形成されています。天然の良港といわれる「七尾港」と海の泉郷「和倉温泉」という恵まれた自然と歴史的な条件のもとで、水産業、けい藻土工業、仏壇製造業、木製建具製造業、繊維織物業、電気機械製造業などがめざましい発展をみせました。また、穴水付近では「ボラ待ちヤグラ」という日本最古の漁法のヤグラが建っています。



ボラ待ちヤグラ